

研究の概要

足利市立名草小学校

1 研究主題

「互いに認め合い、励まし合って、主体的に行動できる子供の育成」
～常に子供に寄り添い、子供の心を感じとり支えることができる教師～

2 研究の基本的な考え方

本校における人権教育のねらいは子供たちの人権感覚を育み、差別のない人間関係の育成を目指すものである。また、子供たち一人一人が自分に関わる様々な悩みや不安（差別）を自分で乗り越えられる力を育てることである。

本校の子供たちは明るく素直で、あいさつや当番活動など決められたことについては真面目にきちんと行うことができる。また、異年齢集団による日常的な活動や交流が多く、思いやりのある行動がとれる。

しかし、自分の考えや行動に自信が持てず、自分から行動することが苦手な子供も多くみられる。子供たちが中学校に進学し、多くの新しい友達と力を合わせて活動したり、自分で考えて行動したりすることができるような子供に成長してほしいと願っているが、このような児童の様子を見てみると、この先、困ったことがあった時、果たして自分の力で乗り越えていけるのだろうかと不安を感じる。

そこで、教職員でどのような子供に育てほしいかアンケートを取り、じっくり話し合った。話し合いから、「友達のよさや頑張りに気付く子供」「友達と学び合える子供」「自力解決できる子供」「自分から進んで行動できる子供」に育てたいという思いを共有した。

そして、このような子供を育てるために教師はどうあるべきかを考えた。多くの教師から、「一人一人を大切にできる教師」「子供の心を読み取り、子供の支えになれる教師」「子供に信頼される、子供を安心させることができる教師」を目指し、人権教育の研究を推進していくことになった。研究の推進にあたり、まずは私たち教師が自らの同和問題をはじめ、様々な人権問題に対する認識を深めるとともに、子供一人一人をしっかりと見つめる眼を養うことが重要であると考えた。また、学習や学校生活の中で、一人一人をしっかりと見つめることで、子供の悩みや不安に気付くことができ、寄り添えることができるのではないかと考えた。

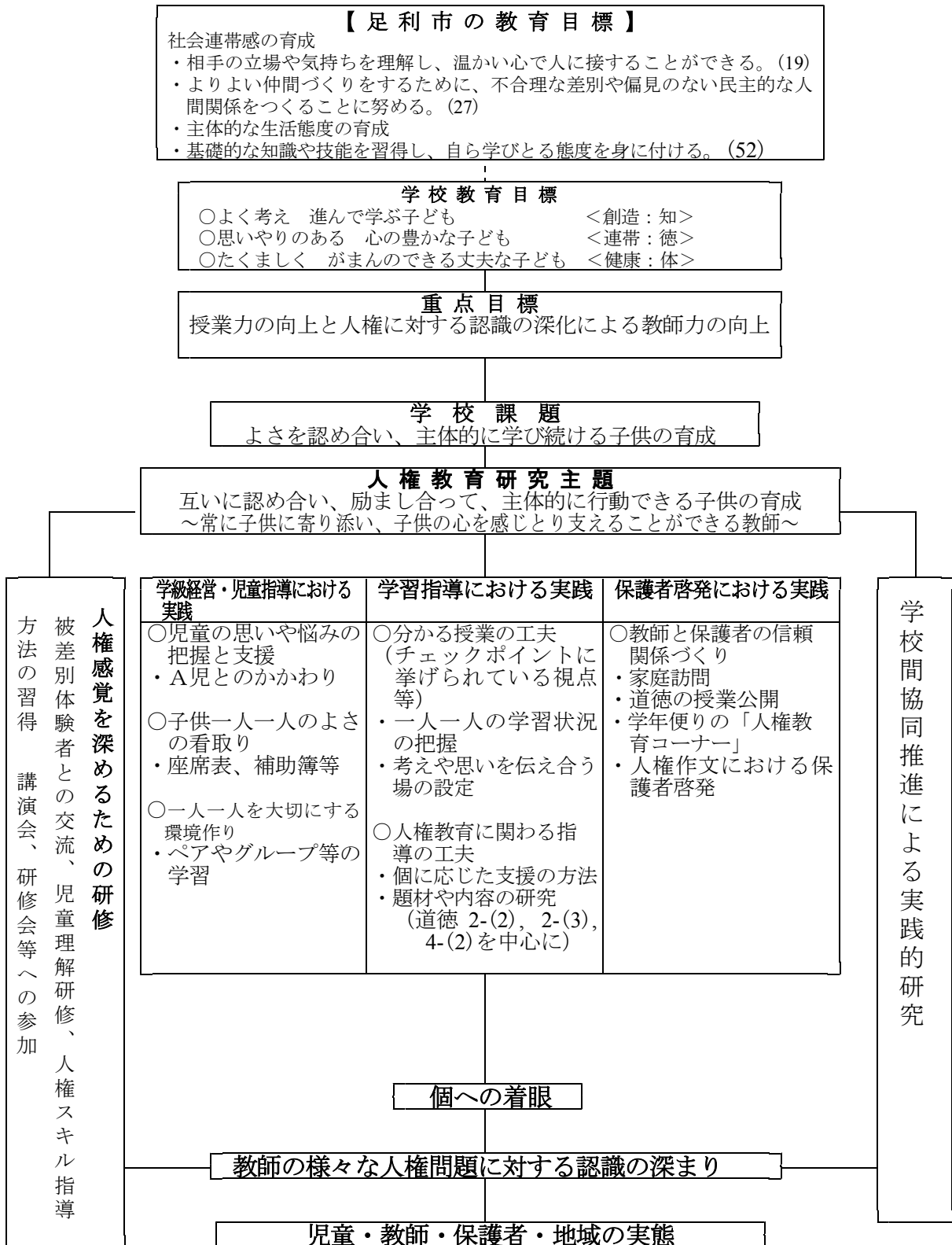
このように、教師が子供に寄り添い、子供のよさに気付く眼を養い、子供を支えていくことができれば、子供たちの人権感覚を育むことができ、さらに、子供たち自身が友達のよさにも気付くことができ、主体的に行動できるようになるのではないかと考えた。

以上のことから、研究主題を「互いに認め合い、励まし合って、主体的に行動できる子供の育成」、副主題として「常に子供に寄り添い、子供の心を感じとり支えることができる教師」と設定した。

普段、私たち教師はどれだけ子供のそばにいるのだろうか。子供の心を感じとれているだろうか。「子供に寄り添い、子供の心を感じとり支えられるような教師」になるためには、やはり子供一人一人をしっかりと看取ることだと感じた。そこで、個の徹底した看取りを中心に研究を進めることとした。

3 研究構想

(1) 人権教育推進構想図



(2) 研究の内容及び方法

研究主題に迫るために、本校における人権教育推進の方策として、次の4つの内容及び方法を考え、研究実践することとした。

① 学習指導における実践

ア 分かる授業の工夫

- ・一人一人の学習状況の把握と考えや思いを伝え合う場の設定 (チェックポイントの活用)

イ 人権教育に関わる指導の工夫

- ・「道徳の時間」における人権教育の視点の扱い方

② 学級経営・児童指導における実践

ア 児童の思いや悩みの把握と支援

- ・A児とのかかわり

イ 子供一人一人のよさの看取り

- ・座席表や補助簿の活用

③ 保護者啓発における実践

ア 教師と保護者の信頼関係づくり

イ 人権意識を高める研修の実施・啓発資料

④ 教職員の人権感覚を深めるための研修の充実

ア 被差別体験者との交流

イ 児童理解研修

ウ 教師の人権についてのスキル(技能)を高める研修



【6年 音楽の授業 ～ 表現方法をグループで話し合い、楽譜に書き込む】



【教師の人権スキル研修 ～ 力を合わせて課題解決に取り組む】

4 研究の実践

(1) 学習指導における実践

① 分かる授業の工夫

ア 一人一人の学習状況の把握と考えや思いを伝え合う場の設定

分かる授業を展開していくためには、やはり児童の把握が大切である。そこで、児童一人一人の学習に対してどのくらい理解できているか、また、どのような考えをもっているか等の把握をどのような場面でどのように看取っていくのかを教職員で話し合い、看取る場の設定(チェックポイントの作成)をし、把握に努めた。

また、授業研究の際には、児童の学習状況や考えなどをどのように把握していけばよいか、把握したものをどのように授業で生かしていくか、子供の思いが伝えられるようにするにはどのような言葉がけや場の設定をすればよいかなどを協議しながら進めていった。指導案の中にも、どの場面で児童の何を把握したいのかを位置づけた。

チェックポイントは、多くの先生方と見直しをし、話し合いをすることで、児童の把握はできているかなどの再確認をするだけでなく、いろいろな先生方の意見を共有できる場ともなっている。

【教員の感想より（一部抜粋）】

- ・チェックポイントで振り返ることにより、学習の様子を把握し、個に応じた発問をすることに心がけることができた。
- ・一人一人の様子を確認しながら授業を進めることができたと思う。
- ・チェックポイントにもあるが、表情や待つ姿勢などに気をつけて環境作りをしています。
- ・チェックポイントを見直すことで、普段の授業の中で子供たちに対する声かけを意識し、子供の様子・考えをより理解して声をかけようとすることができました。
- ・チェックポイントを身近に置き、見ることで児童の把握のできていないところなどに気づき、しっかりみていこうという気持ちになった。

名草小チェックポイント(学習指導)

研究主題 互いに認め合い、励まし合って、主体的に行動できる子供の育成
～常に子供に寄り添い、子供の心を感じとり支えることのできる教師～

☆ねらい

- 低学年… だれとでも仲良くし、励まし合いながら、楽しく生活することができるような人権感覚を身に付ける。
- 中学年… 互いに学び合い、励まし合い、協力し合って生活することができるような人権感覚を身に付ける。
- 高学年… 互いに尊重し合える仲間作りに努めることができるような人権感覚を身に付ける。

分かる授業(安心して学習に参加できるように)	
視 点	ポ イ ン ト
○疑問や分からないことがあったとき、質問できない児童の様子を把握する。	○発問や机間指導の時に、表情や仕草、態度、視線を細かに観察し、児童の様子や変化を見ているか。 ○発表の時の周りの児童の様子をよく見ているか。
○発言が消極的な児童や勝手な発言をする児童などの様子を把握する。	○発表やグループでの活動の時に、児童のつぶやきに耳を傾けているか。 ○発表やペア学習・グループ学習の時の様子と普段の様子と比べているか。「いつもとちがうな。」
○活動に時間のかかる児童や細かな作業が苦手な児童等の様子を把握する。	○作業の取りかかりの様子から児童の表情や態度を細かに見ているか。「目が合わないな。」「手が止まっているな。」
○一人一人の思いや願いを把握する。	○始めのあいさつの時に、児童の表情や態度を見ているか。「不安な思いをしていないかな。」「楽しみにしているな。」 ○机間指導や作業の時に、児童のつぶやきをよく聞いているか。 ○終わりのあいさつの時に、児童の表情や態度を見ているか。「満足しているな。」
○結果だけでなく、努力している児童の様子を把握する。	○グループ学習の時に友達同士の関わり(聞く、教える)を見ているか。 ○作業中の児童の様子を見ているか。



分かる授業の充実

一人一人を大切にする学習環境	
ポ イ ン ト	
○児童が話しやすい雰囲気作りに心がけているか。	(表情、うなずき など)
○思いやりのある聞き方を教師が示しているか。	(待つ、最後まで聞くなど)
○児童のがんばりを認め励ましているか。	
○よさを互いに認め合う場の設定をしているか。	

イ 人権教育に関わる指導の工夫

- ・「道徳の時間」における人権教育の視点の扱い方

人権意識、人権感覚を育む上で、子供たちの人格的基盤を形成する道徳的な価値観の育成は重要である。人権教育の視点（どのように児童をとらえているか）で題材や内容を研究していくことが大切である。

本校では年に1回授業実践を行ってきた。価値に迫れるようにするためには、資料はどれが適切であるか、時間をかけ検討した。特に、子供の思いや願いをどんな場面で把握していくか、終末の教師の説話はどのような内容のものがより児童の心に届くのか等を多くの先生方と話し合い授業をつくっていった。

<参考 道徳指導案 3年>

(2)展開

◎本校のチェックポイントから

指導段階	学習活動と主な発問	時間(分)	予想される児童の反応	教師の支援
導入	1 友達に言われてうれしかったことを発表する。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとう。 ・一緒に〇〇をしようよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時のねらいとする価値への導入を図る。 ○事前にとっておいたアンケートの回答を紹介する。
展開(前段)	2 資料を読んで話し合う。 ○リビーに本当のことを言われた友達はどんな気持ちになったでしょう。 ○一人ぼっちになってしまったリビーはどんな気持ちになったでしょう。 ○おばさんに馬のことを言われたリビーはどんな気持ちになったでしょう。	10 一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・やだ。 ・ひどい。 ・みんなの前で言わなくても。 ・本当のことを言っただけなのに。 ・なんでだろう。 ・悲しい。 ・そんなことないよ。 ・嫌な人だな。 ・本当のことだけど、そんな言い方しなくても。 	<ul style="list-style-type: none"> ○挿絵を用意し、あらすじの確認をしながら、登場人物の気持ちをとらえやすくする。 ◎内容の理解ができているかどうか、児童の表情から学習状況を把握する。 ○リビーと友達の気持ちが考えやすいように、それぞれを分けて板書する。 ○本当のことを言っているのに相手を傷つけてしまっていたと気付いた主人公の気持ちをとらえさせる。

授業中の児童の様子
(A児を中心に)

児童の表情から内容を覚えているかどうか分らなかった。注意がそれていることもあったので、声をかけながら授業に集中できるようにしたい。

	○ハッとしたリビ ーは、どんな気持ち だったのでしょうか。	10 一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・私も言ってたかも？ ・何かに気が付いたか ら。 ・言い方が悪かったの かな。 ・本当だけと言っちゃ いけないことがある。 ・「ほんとうのことをい う」ってどういうこ とか気付いたから。 		
	3 ともだちにどんな言 葉をかけた方が良かったか考える。 (ロールプレイ)	10 グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・その服素敵ね。でも、 靴下をちょっと見て。 ・教えてくれてありが とう。 ・小さい声で言う。 	○役割演技を通して、 相手の立場に立って 言葉かけをする。 ◎グループ発表の場面で 人間関係を把握する。	子供同士で考えを伝える場を 設定 ↓
展開 (後段)	4 リビに手紙をかく。	10 個人	<ul style="list-style-type: none"> ・本当のことを言うこ とは悪いことじゃな いんだよ。でも、相 手を傷つけない言い 方って大事だと思う よ。ぼくも、ともだ ちの気持ちを考えて 話をしようと思いま した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験を振り返 らせるとともに、自 分はこれからどうし たいかという観点で 書けるようにする。 	<p>グループでの話し合 いの時に「自分だっ たらいやだと思っ たぶん友達もいやだ と思う」というよう なことをいうことが できていた。そこから友 達の気持ちを理解す ることができているこ とが分かった。</p> <p>グループの中で、積極 的に話し合いに黙わ れない場面があり、何 をどう話したらよ いのか分からな いのかと思 い「…の…について」考 えるように指示をした。</p>
終末	5 教師の説話を聞く。	2 一斉		<ul style="list-style-type: none"> ・教師の体験に基づ く説話を述べる。 	

(2) 学級経営・児童指導における実践

① 児童の思いや悩みの把握と支援

ア A児とのかかわり

A児一人に丁寧にかかわり、思いや悩みを把握することは、学級の児童一人一人を把握する力につながり、よりよい学級経営を進めることができると考えた。

また、本校の副主題『常に子供に寄り添い、子供の心を感じとり支えることができる教師』にも迫れると考えた。

そこで、教師がA児とかかわっていく中で、気付いたことやA児の思いなどを知り、どのように考えたのか、A児とのかかわりを通して学んだことなどを記録するようにした。

全教職員で児童を看取るという考え方から、担任だけでなく、少人数指導担当の教諭や養護教諭なども取り組んだ。

1 年間の児童とのかかわりを通して学んだこと（平成25年度の記録から）

「うまく集団に溶け込めず、表情が暗いことの多い児童とのかかわり」

1 年担任

A児は、真面目で何事にも熱心に取り組んでいる。思うように進められないことも、最後までがんばろうと努力している。しかし、苦手なことを周りの人に気付かれるのをいやがる傾向がある。休み時間は1年生や2年生と遊んでいることが多く見られるが、自分の思う遊びができず、表情をかたくしていることもある。雨の日には、「自由帳に絵を描く」ことを好み、他の友達が粘土遊びをしていますが、一人で絵を描いている姿をよく目にする。

1学期、何でも真面目にがんばるA児に対して、「多少表情はかたいが、学校生活や友達に慣れていないのだろう」と思い見守ってきた。午前中は特に表情が暗いことも多かったが、給食の時、A児の班と一緒に食べる時には話しかけてきてくれたり、食べながら友達と楽しそうに会話する姿も見られたりし、少しずつ慣れてくるのではと思っていた。

生活科の学習では、生き物が苦手なため、「うさぎ」を抱いたりえさをやったりする活動には消極的であった。しかし、友達ができることを自分ができないのが悔しいと感じたようで、がんばって活動に参加しようとする様子が見られ、そのがんばりをほめるようにしてきた。

2学期の最初、やはり表情のかたさは残っていた。A児に個人的に声をかけ、A児の興味あるキャラクターの話や家庭での出来事を話題にした時には笑顔が見られるが、授業中やグループ活動をしている時は、つまらなそうに暗い表情をしていることも多かった。そこで、できるだけ多く話しかけたり、A児のつぶやきを授業中にとりあげたりするように心がけてきた。

11月に入り、生活科の学習でサツマイモ掘りをした。その時のA児は、慣れた手つきでシャベルを使い、友達や2年生と協力しながらどろんこになって楽しそうに活動していた。日頃手や洋服が汚れることを嫌うA児とは別人のようであった。シャベルの使い方が上手なのでほめると、家で父親とタケノコ掘りをした時、上手に掘れて父親からからほめられたことを嬉しそうに教えてくれた。また、「あそびのひろば」を開く学習で、作りたいゲームを提案して、それがみんなに認められ採用されたことがうれしかったようで、進んで材料を集めたり、家からもってきたりしている。また、「秋の募金箱」と称して、休み時間に校庭に落ちている木の葉や木の実を集める活動を友達が始めると、一緒に参加し、他の児童が途中でやめてしまっても、続ける姿が見られた。途中で投げ出さなかったことをほめると、嬉しそうな笑顔を見せていた。しかしゲームを作る作業の中で、同じグループの児童に自分の考えを取り入れてもらえなかったり、否定されたりすることもあり、自分の思いがうまく伝わらず暗い表情をすることも何度かあったため、グループの児童全員に、よく話し合い、友達の意見も取り入れながら進めるように話し、またグループの様子を見逃さないように心がけるようにした。その結果、意見が合わない「相談する」ことができるようになってきた。

また、同じ生活科の学習で「落ち葉で校庭に絵を描く」活動では、一緒に組んだ児童にやり方を教え、自分の思い通りに描くことができ、嬉しそうな表情をしていた。生活科で行った「あそびのひろば」に保育所の児童を招待した時、保育所の児童の面倒をよく見ている場面が見られほめたところ、嬉しそうにしていた。

12月になって、一輪車検定の練習が始まると、学校でも家庭でも一生懸命に練習し、上手に乗れるようになった。嬉しさのあまり、友達に自慢するような場面も見られ、他の児童から、「A児は自慢するからいや。」という声が聞かれた。そのため、A児には、がんばって努力して乗れるようになったことをほめると同時に、嬉しさの伝え方によっては「自慢」に聞こえてしまうこともあることを伝えた。また、他の児童には「A児が誰よりも努力したこと、一緒に喜んであげてほしいこと、自分たちも努力するとA児のように乗れるようになること」を伝え仲直りさせた。A児を妬んだ児童もその後練習をし、乗れるようになった。

3学期になって、一輪車で2学期にトラブルが何回かあった児童と毎日遊ぶようになった。また、2年生とも一緒に遊び休み時間には互いに誘い合って校庭に出て行く姿が見られた。教室でも友達と楽しそうに過ごす姿も多くなっている。

まだ、A児の思いがわかっていないと感じることも多い。やわらかくなったとは言え、まだ

表情がかたくなることもある。A児の保護者とは、友達との関わりについてどのように思っているのか、心配なことはないか、等の話はまだしていない。

A児をもっと知ること、保護者の思いを知ること、A児の暗い表情やかたさがどこからくるのか、どうしていったらA児がいつも明るくいられるのかを探っていきたいと思っている。

A児とのかかわりで、A児をよく見るためには、他の子のこともよく見なければかかわりがつかめないこと、他の先生方との情報交換がとても大切で有効なことを学んだ。

「友達とのかかわり方に悩んでいる児童とのかかわり」

6年担任

A児はとても元気で休み時間になると、真っ先に校庭に向かい下級生とサッカーをして遊んでいる。歌を歌うことが好きで、大きな口を開けて楽しそうに歌っている様子が見られる。しかし、自分の思いが通らないと周りに対して文句を言ったり、イライラするなどの不快な態度を与えたりしてしまう。そのため、友達関係がうまくいかず、周りもA児に対して距離を置いている。A児を昨年担任していたので、5年生の時は、トラブルがある度にA児と話し、「相手に嫌な思いをさせないようにしよう。」と指導してきた。

しかし、6年になっても友達との関係もうまくいかず、1学期の国語でグループごとに音読の練習を行った時に、イライラして友達に文句を言っている様子が見られたのでその後A児と話をした。すると、「自分がみんなをまとめていたのにみんなが意見を言わなかったから。」「友達と仲良くしたいけどうまくいかない。」と話していた。その話から、A児なりに頑張ろうとしているが、友達に対しての言い方などの方法が分かっていないと感じた。また、様子を見てみると、周りの友達も、A児に対しては冷たい反応をすることも見えてきた。今までは、「A児に問題がある。」と考え、A児のマイナス面を中心に見てしまい、A児の思いや頑張りになかなか気付けなかったと感じた。また、A児も友達とかかわっていきこうとしていることを強く感じた。

そこで、A児に対しては、うまくいかなかった時には、A児に「この時はこうやって言ってみるといいよ。」など、具体的にアドバイスをし、周りの児童に対しても、「A児が伝えようとするのはしっかり聞き、いやな言い方をされた時には黙ってしまうのではなく、『だめだよ。』と伝えるようにしましょう。」と話した。その後、少しずつではあるが、友達の意見に対して「そうだね。」「いいね。」と言う言葉が聞かれるようになってきた。

2学期になり、運動会で、赤組の応援団長となった。初めはなかなかコミュニケーションをとることが難しく、A児もやる気が見られなかったが、友達から「一緒にやろうよ。」と優しく声をかけられると素直に練習をすることができた。そして、一緒に内容や振り付けを考えていくうちに、友達の意見に共感し、取り入れている姿も見られるようになった。周りの友達がA児に対して優しく接していたので、A児は練習にも励み始め、練習の時にはとてもうれしそうな表情を見ることができた。

10月の音楽の授業の時、グループごとに「ふるさと」の表現方法を考える学習の時には、友達の考えにうなずいたり、「それいいね!」と声をかける姿が見られた。よく見てみると、グループの友達もA児の考えに対して共感していた。やはり、周りの友達がA児を認める、受け入れる雰囲気になると、A児も優しい言動がとれるのだと強く感じた。

10月末に修学旅行で班別自由行動のコースを決めることになった。A児がイライラしているのでグループの子供たちに声をかけ話を聞くと、A児が行きたいと言った場所とその他の児童が行きたい場所で意見が分かれてしまい、多数決でA児の行きたい場所には行けなくなったそうである。そのため、「自分ばかり・・・。」と思ったそうである。他の子供からも話を聞くとそれぞれの考えがあることが分かった。そこで、「どうしたらいいだろう?」と考えさせたところ、場所はA児の行きたい場所へ行けない代わりに、昼食場所はA児の希望していた場所にしようということになった。グループ全員の意見が反映されたコースを作れることができたことに対し、「みんなで意見を出したり、譲り合っているいいコースができたね。」と声をかけた。

A児に、友達と一緒に何かをする楽しさを味わわせる機会を多く持たせ、周りの児童にもA児のよさや、思いを伝えるようにすることで、少しずつ仲良く遊んでいる場面が見られるようになってきた。卒業の時には、「友達とうまくいかなくて苦しい時もあったけど、今はみんなと仲良くできてよかった。」と話してくれて嬉しくなった。

A児とのかかわりを通して、その子だけでなく、その子の周りの環境も把握することが大切だと感じた。また、もっと一人一人のよさを見つけていきたいと思う。

(平成26年度の記録から)

「友達とのかかわりで表情がかたくなる児童とのかかわりについて」

養護教諭

私にとってA児の第一印象はおとなしい児童であった。保健室でも初めのころは恐る恐る入り、表情がかたく、質問しても必要最低限のことしか言わず、自分の状況を詳しく伝えることができていなかった。

A児とのかかわりが増えたのは、1年生の2学期であった。名草小は一輪車検定があり、それに向けて休み時間等になると練習する児童が増えてくる。A児も1年生ながら、検定のために練習を始めた。私も休み時間、低学年と一輪車で遊ぶことがあるのでA児とも一緒にやる機会が増えた。A児は保健室に顔を出すと、「今日、休み時間大丈夫ですか?」「先生!早く来てください。」と言うようになった。

当時、1年担任が授業中の様子や友達とのかかわり方からA児のことが気になると情報交換をしていた。私はA児とはどんな児童なのだろうと思い、A児とかかわりをもっていきたいと考え、できるだけ休み時間などにかかわりを持つように心がけた。

私が見る限り、表情は明るく生き生きとして一輪車に乗っているイメージであった。しかし、ふとした友達とのかかわりの中では何か言われてしまうとかたまってしまふなどの行動も見られた。A児は、対子供になると、言いたいことが言えずに表情がかたくなってしまふことがあった。

今年度は、A児がもっと友達と仲良く学校生活を送れるように、そして、私自身もA児としっかり向き合い、A児の困り感を少しでも減らし、よい方向へ支援していきたいと思った。

昼休みに一輪車で遊んでいて、みんなで技をやったとき、嬉しそうな表情をみせ、楽しそうに遊んでいた。しかし、A児が失敗してしまうと「ああ、もうちょっとだったのに」と友達に少し責められ、悔しい思いとなにか言いたい気持ちで表情がかたくなった。私は、責めた子に「失敗は成功のもとだよ。最初から誰も乗れないよね」と伝え、本人そして周りの子にも励ます声かけを行った。すると、少し安心した表情になり、そのまま遊びを続け、笑顔になった。

現在、A児は教室でも楽しそうな姿を見せたり、放課後も友達と遊んだりと確実に友達の輪が広がっており、友達とかかわる楽しさを少しずつ感じていると思う。

今回、A児をまとめるにあたって、看取りができていると思っていたが、本人の思いがしっかりと把握することができていなかった。振り返ってみると、あのとき、A児はどう思っていたか、しっかりと看取っていく必要があったと思う。今後も、A児がいつも楽しい学校生活を送れるように担任等と連携を図りながら、看取っていききたい。

A児とのかかわりを通して、養護教諭という枠に限らず、一教員としてのかかわりの必要性を学んだ。まず、一人の児童を見ていく必要性を感じた。そして、背景を把握し、担任等と連携を図り、全体で児童を見ていくことの大切さを多いに学んだ事例となった。養護教諭は保健室等において、普段教室ではみられない児童の言動を把握できる立場であると思う。だからこそ、児童のいいところ、できたところを多く見ていき、児童のよさを認めていきたい。

【A児とのかかわりを通しての教員の感想(一部抜粋)】

- ・一人の児童を深く見つめ直すことで、自分自身のかかわり方の反省点や児童の思いを考えることができた。また、子供たちの言動に注意するようになった。
- ・その子に意識的に話すようにした。また、授業中は、発言する機会をどんどん作り、どんどんほめるようにした。コミュニケーションを多くとり、A児が自信を持って学校生活を送れるように心がけた。
- ・児童の様子を注意深く見ていると、周りの児童の状況や様子にも目を向けることができ、他のよさや特性に気づくことができてよかったと思う。
- ・A児を意識することにより、A児のつながりを知ること、そこから他の児童の様子も知ることができた。
- ・A児に対して、教師だけでなく、児童同士のつながりも意識し、周りの児童へ働きかけ、A児とのかかわりができることで、A児のよさ、変容も看取ることができたと思う。

② 座席表や補助簿での子供一人一人のよさの看取り

教師は、指導しようと思うあまり、つい児童のつまづいているところを見つけてしまいがちである。そこで、座席表や補助簿などに、チェックポイントを活用し、把握した児童一人一人のよさを書き込んでいくことで、その子のよさを伸ばしていこうとする考え方で指導にあたることができると考えた。

座席表に関しては、まずは、授業研究会を行う前に作成することとした。実際に作成してみると、教師自身が普段、子供一人一人のよさをどのくらい見ているのかもわかり、より意識して見ていくことの必要性に気づくことができた。また、教師の人権感覚の向上にもつながっていくのではないかと感じた。

座席表

黒板

給食のときは家族のことや旅行に行つた時のことを楽しく話している。話し合いでは中心となって進めている。	クラスの中はムードメーカーとなっている。クラスのみんなが楽しめるような遊を考えたり話をして盛り上げている。	係種別話し合いでは中心となって話を進めている。自分の意見をよまきりと伝えることができる。	話をするのが好きで、給食の時間などはアニメなどの話をみんなに伝えている。	男女を問わず仲良く過ごしている。係種別など協力して取り組むことができる。	休みの時間は下級生と一緒にサッカーをして楽しんでいる。下級生から慕われている。
誰が話しても穏やかに話をしている。友達が困っていると声をかけて手伝っている。	いつもたくさん意見述べている。修学旅行の話し合いでは積極的に調べ友達に伝えている。	健康安全委員会の委員長として進んで意見を述べている。休み時間には元気に友達と話している。	縦割り班や清掃の時は下級生に優しく教えている。男女を問わず仲良く話している。	グループで言画を立てる時は中心となって活動し、みんなの意見をまとめよりよいものになるよう努力している。	給食の時は自分からいろいろな友達と声をかけようと色々な話題を出している。
		友達と好きな芸能人の話などをしている。男子ともアニメの話などをして興味のある内容に対して進んで話している。			話し合いをする時には友達の意見をよく聞いている。また、その友達の見解を取り入れて活動している。

(3) 保護者啓発における実践

① 家庭訪問における啓発

ア 人権教育について全家庭で1対1による話し合いをすることは、保護者啓発を図るだけでなく、教師自身の自己啓発による感化・相互啓発であるという視点に立ち、保護者理解に努める。保護者の思いや願いを聞き、子供の悩みを保護者と教師で語り合う関係づくりの第一歩になればと思っている。

イ 「子供一人一人を大切にしている。」という教師の姿勢を伝える。そこで、担任が見つけたその子のよさを、たくさん伝えられるように用意しておき、保護者に伝えるようにしている。

【保護者の思いや願いを聞いての感想(一部抜粋)】

- ・学校での児童の頑張っていることを伝えると保護者の方は、「自分が知らない我が子の一面を知ることができてうれしい。」と話していた。学校での様子を伝えることは大切だと思った。
- ・子供たちの話や様子を話す保護者の様子から、学校の様子、人間関係について気にかけて下さる思いを聞き、学校生活で生かせることは意識して取り入れていこうと思った。

② 授業参観・学年部会での啓発

ア 年に1回、授業参観で全学年道徳の授業を実施している。(児童の実態から「思いやり・親切2-(2)、信頼友情2-(3)、公正公平・正義4-(2) *公正公平・正義は高学年のみ」の題材を取り上げ、授業を行った。)

イ 毎回授業参観後の学年部会では、「本日の授業について～人権教育の視点から～」について話している。(工夫した場の設定や、授業の中で見つけた子供同士の関わりの様子など)

<参考資料 学年部会資料(一部抜粋)>



第3学年 学年部会・懇談会

平成26年6月25日
15:40～

1 学年部長・副部長あいさつ

2 担任より

(1)本日の授業参観について(人権教育の視点から)

- ・ちえの気持ちを通して考えていくことで、励まし合うことの大切さを考える。また、今後の学校生活に生かそうとする気持ちを持たせる。

(2)1学期の児童の様子について

【生活面】

- 基本的習慣が身につきました。(時間と共に行動、学習の仕方など)
- 友だちと仲良く過ごしています。



【授業を参観した保護者の感想(一部抜粋)】

- ・ 色々な場面ごとの「とべないホテル」の気持ちを、子供なりによく考え、素直に発表していたと思います。また、先生が何度も丁寧にこのホテルの気持ちの変化を話していたので、子供たちによく伝わっていたなと思います。温かい授業をありがとうございます。
- ・ 人に対しての思いやりの心を大切にするという事を、改めて考えさせる授業であり、先生の教え方がとても分かりやすくよかったです。
- ・ 子供たちが「やさしい心」をもっていてくれてうれしくなりました。その心を忘れずに大きくなってほしいと思います。また、毎日連絡帳に一言ずつ書いていただきありがとうございます。

③ 学年だよりにおける啓発

人権教育コーナーに学校生活の中の子供たちの心温まる行いや、友だちを大切にできる子供の姿、担任の思いなどを掲載している。保護者啓発につながるだけでなく、教師の子供一人一人をいろいろな場面で見つめるという教師自身の啓発にもなっている。

平成26年度より、学年だよりに保護者が自由に記述できる欄を設けた。保護者の思いを知ったり、語り合ったりするためのひとつの手立てになればと考えている。

<参考資料 学年だより・人権教育コーナー>

足利市立名草小学校 第3学年 学年だより

11月 H. 26. 10. 30

11月

日ごとに早くなる日没や風の冷たさに、季節の変わり目を感じます。10月は、学校音楽祭に向けての練習や陸上部の練習に一所懸命に取り組む様子が見られました。11月は持久走大会があります。これからも、一人一人が自分のめあてに向かって、がんばって欲しいと思います。

学習予定

- ・国語 ちいちゃんのかげおくり 修飾語 すがたをかえる大豆
- ・社会 売る仕事・つくる仕事の工夫
- ・算数 かけ算の筆算 分数
- ・理科 光のせいしつ
- ・音楽 せんりつのとくちょうをかんじどころ
- ・図工 ふしぎなのりもの
- ・体育 ハードル走 持久走

～人権教育コーナー～

10月から、友だちのよいところを紙に書き提示をしています。読んでみると、自分がしてもらったことだけでなく、「友だちを励ましていました。」「〇〇さんを手伝っていました。」など、他の友だちにしていた優しさにも目を向けてよさを見つけることができるようになってきました。友だちのや自分のよさに気づき、力を合わせて過ごしてほしいと思っています。

お知らせ

☆ 持久走大会に向けて、ランニングタイムが始まります。元気に参加できるように、ご家庭でも健康管理に留意していただけたらと思います。

☆ 学級文庫に新しい本が入りました。子供たちも読書の時間には喜んで読んでいます。とても過ごしやすい季節です。学校でも読書週間が始まります。いい機会ですので多くの本に親しんでほしいと思います。

音楽の授業では、階名読みやリコーダーの練習を行っています。少しずつできるようになり自信もついてきたようです。今では、休み時間にも、階名で歌ったり、リコーダーの練習をしたり、みんなで学習した曲の替え歌をして楽しんだりしている姿も見られます。これからも音楽を楽しんでほしいと思います。

キトリ

*ご意見ご感想などありましたらご自由にお書き下さい。

人権教育コーナー

運動会などの行事の時には、「助け合い」の場面が多くなります。競技の時だけでなく、「はちまきを結ぶ時」「ソーラン節のはっぴをたたむ時」等、早く終わった子は、まだの子にやり方を教えてあげたり、手伝ってあげたりしていました。また、踊りや並び方が分からない子には、分かっている子が教えてあげていました。そんな時には、やってもらった子が、うれしそうに「ありがとう」と言う姿もみられました。

〇〇さんは、「△△が得意なんだ」と友達の良さを見つけることもできました。今後も互いの良さを認め合い、それを生かして助け合っていければと思います。

④ 人権作文による啓発

本校では、毎年6月に、児童理解を深めるために全児童に人権作文を書かせている。

担任は、児童一人一人が日頃考えていることや感じていることなどを真剣に書いた作文を読むことにより、その子の思いや考えが伝わってくる。

また、保護者は、担任のコメントが付いた子供の人権作文を読み、子供の考えや担任の思いなどを知ることができる。その後、保護者にも感想を書いてもらい、担任に提出する。このように、教師と保護者の両方が児童の思いを知り、共有することができた。今後も、学校と保護者が信頼関係を深め、子供の思いを把握し、支えていきたいと考えている。

【保護者の感想(一部抜粋)】

- ・学校での毎日の何気ない体験が、子供の気持ちに自信を持たせてもらえていることが分かり、うれしく感じました。
- ・電車に乗った時に、子供がこんなに色々な学びをしていたことに驚きました。座席に限らず、譲り合う気持ちは大切だと思います。みんながやさしい気持ちになれます。やさしく思いやりのある、人の役に立てる大人になれるよう頑張してほしいです。
- ・「一つの花」の話にもありますが、みんなそれぞれに感じ方、見方があります。だから自分の考え方がすべて正しいと思わず、相手の思いや考えも取り入れ、たくさんの経験をしてほしいと思います。

(4) 教師の人権感覚を深めるための研修

人権に関する知識や技能の他、感性や人権感覚も含め、人権を尊重できる意識の深化を目指し、児童に寄り添える教師に迫れるように研修を行った。

① 被差別体験者との交流

被差別体験者の方々と同和問題をはじめとする人権問題について話し合うことにより、教師自身の同和問題に対する認識を深め、同和問題解消に向けての使命感を新たにす機会とした。

そして、教師自身の認識を深め、児童が不安や悩みを抱えていたときに、相談にのることができるような信頼関係を築くため、一人一人の子供たちとかかわりを深め、気軽に相談できる人間関係づくりに日々努めていきたい。

そこで、交流会では、3人の講師の方を迎え班別懇談による交流を行った。少人数での話し合いのため、じっくりと語りあったり、体験を伺ったりすることができた。

【交流会に参加した教職員の感想から(一部抜粋)】

- ・今回の研修では、自分の思っていたことや考えていたことが大分話せたと思います。講師の方もおっしゃっていましたが、話すことで、その人がいい人と分かります。講師の方のお若い頃の話やお子さんの話、活動されているときの話など、さまざまなお話を伺って、講師の方のお人柄もよく分かり、さらに差別をなくすために、学校教育はとても大切なんだということを感じました。そして、次の交流会では、もっと自分の思いを語り、講師の方のお話も伺いたいと思いました。
- ・「とことん話し合う」「正しく知る」「社会に出たとき、崩されない強い気持ち」・・・私たちへの助言であり、願いであり、エールであると思いました。名草小の子供たちに自分は何ができるか、授業で出会う子供たちに教科書以外に何を教えるべきか、どんな子に育ててほしいか、それらを改めて考えるととてもいい時間をいただきました。これからも正しいことを言える子供の育成に努めていきたい。
- ・毎年、交流会に参加させていただき、やはり語り合うことの大切さを感じました。うわさや、言い伝えなどで判断してしまいがちですが、やはり話すことで誤解も解けるのでは

ないかと思えます。学校でも、子供たちにしっかりと正しい判断ができるよう、噂などに惑わされない強い心を育てていきたいと思えました。講師の方もご高齢にもかかわらず、私たちのために話して下さっているその思いを、しっかり受け止めていきたいです。

② 児童理解研修

現職教育や職員会議後の時間を利用し、全教職員で気になる児童や、配慮を要する児童などの共通理解を行った。特にA児の最近の様子や変容などについて、じっくりと話し合う時間を設けた。多くの教職員からさまざまな情報を知ることにより、A児が抱えている問題や悩みなどを、一方的ではなく多方面から考えることができ、担任も気づかなかったA児の頑張りなど、より深い把握ができ、A児に対し、よりよいかかわり方ができるのではないかと考えている。

③ 教師の人権についてのスキル（技能）を高める研修

平成25・26年度の夏休みに講師の先生をお迎えし、子供同士の活躍の場づくりや、子供同士、子供と担任の好ましい関係が築いていけるようなゲームなどを教えていただいた。また、研修を行うことで、教師自身が協力することの大切さを実体験することができ、自己有用感を感じることができた。

5 研究の成果と課題

(1) 成果

① 学習指導・学習環境

- ・一人一人を丁寧に看取る力がつき、支援がより適切になった。
- ・これまでに意識することのなかった点について、チェックポイントを活用し、意識して指導することで、丁寧な児童の把握ができるようになった。
- ・チェックポイントの活用により、子供を見る視点、見るための手段だけではなく、自分の見方や心構えを振り返る、見つめ直すことができた。
- ・チェックポイントで自分を振り返り、反省点を次回に生かせるようになった。

② 学級経営・児童指導

- ・子供同士のかかわり、自分が子供とどのようにかかわってきたのか、改めて見直し、どんな言葉かけ、かかわりをしたらいいか考えることができた。
- ・子供一人一人をよく看取することは、他の児童も深く看取ろうとすることである。その子だけでなく、周りとのかかわり方や思いにも気づき、教師自身のかかわり方の振り返りにもなり、よりよいかかわり方ができた。
- ・子供のよさを見つめることで、その子のよさを認め伸ばしていこうとする思いが強くなった。

③ 保護者啓発

- ・保護者の感想などから前向きな意見が多くなり、意識の向上が感じられた。また、学校で行っている人権教育に対して少しずつ理解していただけるようになってきた。
- ・保護者の思いをもっと知ろうとする気持ちが高まり、積極的に話をするようになった。
- ・保護者に子供のよさや担任の思いを伝えることは自己啓発にもつながった。

④ 教師の人権感覚を深めるための研修

- ・交流会を通して、「自分だったら・・・」など自分とじっくり向き合うことができ、また、教師も自分の思いなどを語れるようになってきた。
- ・普段からも、子供の様子についてたくさんの先生方の目で見ているため自分の知らない表情、思い、様子などを話し合いにより、共有することで、さらに他の子供を看取

っていくことができた。

(2) 課題

- ・子供一人一人のよさや思いを知るためには、今後も徹底した個の把握に努めていく必要がある。保護者の思いや願いにも寄り添いながら、子供を支えていきたい。
- ・児童の思いが伝えられやすい環境づくりを今後も取り組んでいきたい。
- ・より一層、児童の不安や悩みに寄り添い、子供の心を感じ取れる教師となるために、同和問題をはじめ様々な人権問題に対する認識を深めるための研修の充実を図る。
- ・子供の思いや願い、不安や悩みなどを保護者と教師で共有していけるようにしていく。
- ・今後も今まで研究してきたことを生かし、振り返り、一つ一つ再確認しながら継続していきたい。

おわりに

平成24年度より研究を進めてきたが、一番強く感じたことは、徹底した児童理解が大切ということである。じっくりと一人の子供とかかわることで、子供がどうしてつまづいているのか、何に不安を感じているのかなど、子供の本当の思いを把握することができてくるのではないかと思う。今後はさらに深く子供とかかわっていきたいと思う。また、3年間の研究を通して、私たち教職員の意識も、子供をもっと見よう、知ろうという思いが強くなり、多くの先生方と一人の子供について熱心に語り合えるようになってきた。A児とかかわっていくことで教師間のつながりを深めることができた。

研究を進めていく中で、先生方と本音で語り合えることにより多くの気づきがあり、また一人一人の先生方の思いを知ることもできた。今後も一人一人を大切にしたい教育を目指し、全教職員で全ての子供に寄り添い、研究を深めていきたいと思う。

ご指導いただいた先生

足利市教育委員会		教科指導員	吉田 元保 先生
教育次長	村田 正幸 先生	〃	岡本 一利 先生
指導担当主幹	長竹 岳志 先生	〃	吉田美紀子 先生
指導主事	近藤 忠 先生	教科指導員(音楽)	新井 和子 先生
指導主事	高木 秀和 先生		
指導主事	服部知恵子 先生	平成25年度足利市教育委員会	
指導主事	大森 順子 先生	教育次長	川島 初夫 先生
指導主事	片平 和義 先生	指導担当主幹	関根 景子 先生
指導主事	田村 有久 先生	指導主事	柏瀬 和彦 先生
主幹・研究所次長	佐藤 宏行 先生	指導主事	福田 郁男 先生
指導主事	中村 徳幸 先生		
指導主事	赤坂 治之 先生	平成24年度足利市教育委員会	
指導主事	岡崎佐季子 先生	指導担当主幹	松村 由紀 先生
		指導主事	久保 恵子 先生

研 究 同 人

校 長	田中 昭三	養護教諭	菊田 詩織
教 頭	町田 敏夫	主 事	正橋 則子
教 諭	早川 理恵	講師(非常勤)	板橋 浩子
〃	蘓原 幸枝	技 能 員	太田 茂
〃(研究主任)	湯澤 典子	運 転 手	田代 昌治
〃	池田 幸子	学びの指導員	塚越 雅子
〃	石井 統子	心の教育相談員	厚木 淳子
〃	中田 浩幸		
〃	相場 雅也		

平成25年度

教 頭	丹野 栄一	講師(非常勤)	関田 有加
主 事	加藤 小卷	技 能 員	堀江 明
講 師	野澤 康子	学びの指導員	松村富美江

平成24年度

校 長	小池 正勝	技 能 員	阿久津三郎
教 諭	新井 和雄	学びの指導員	阿部 禮子
講 師	大岡 真紀		